

平成 29 年 6 月 15 日現在

機関番号：14302

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26381073

研究課題名(和文)メンタライゼーションに介入する教員養成課程学生への精神保健教育システムの開発研究

研究課題名(英文)Development study of mental health education system for teacher training course students intervening in mentalization

研究代表者

森 孝宏(Mori, Takahiro)

京都教育大学・教育学部・教授

研究者番号：70387538

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：教員養成課程学生入学時に実施した愛着ならびにリフレクティブ機能の測定結果を、在学中の精神保健向上や支援並びに教育に資するメンタライゼーションへ介入するシステムを構築した。研究成果は第56回日本心身医学会総会や第36回全国大学メンタルヘルス研究会等にて発表した。メンタライゼーションに準拠した学生支援は、教員養成課程大学生対象にとどまらず、不登校等の児童生徒への支援に生かせることから、一般公開された京都市総合教育センター主催「不登校フォーラム」や京都府総合教育センター教員研修セミナーで研究成果を生かす講演を行った。

研究成果の概要(英文)：Mentalization based intervention system for university students of teacher training course is established contributing to mental health promotion during university semesters with the measurement results of attachment and reflective functions performed at the admission time. The results of the research were presented at the 56th General Assembly of the Japanese Psychosomatic Medicine Association and the 36th meeting of National University Mental Health Study Group. Student support in compliance with mentalization is useful not only for teacher training course university students but also for students who are not attending school and so on. I gave lectures to make use of research results at "School refusal Forum" sponsored by public education center of Kyoto City" and "teacher training seminar by Kyoto Prefectural General Education Center"

研究分野：思春期青年期精神医学

キーワード：大学精神保健 メンタライゼーション

### 1. 研究開始当初の背景

メンタライゼーションに準拠した新しい境界性パーソナリティ障害治療が脚光を浴びており、メンタライゼーションに準拠した心理療法が精神保健の分野に応用される機運があった。

### 2. 研究の目的

メンタライゼーションに準拠した教員養成課程学生の精神保健教育や精神保健増進のためのプログラムを開発し、在学中の精神保健増進に役立てるようにする。

### 3. 研究の方法

初出はフランスにおけるマンタリザシオンで、研究代表者が1990年にパリへ留学し概念提案研究者に直接学んでいたが、その後の研究の発展状況を調べるためパリ心身医学研究所やパリ精神分析協会等で調査した。メンタライゼーションはイギリスから世界に広まったが、研究代表者が英国における主たる研究者によるロンドン・アンナフロイトセンターでの治療登録者セミナー2014に参加し、メンタライゼーション準拠思春期青年期治療者に登録された。登録により正規のメンタライゼーション準拠療法治療者として本研究プログラムを遂行した。

### 4. 研究成果

精神保健増進のために専門的な援助が必要なはずの学生が、学内相談機関である保健管理センター等や学外の精神科クリニックに援助を求めることは稀である。統計上では自殺大学生の多数が相談施設利用をしていないことが報告されている。そのため京都教育大学では、新入学時にCMI検査を行い、その結果によって呼び出し面接を行っているが、全く不十分である。1つに、ほとんど「いいえ」をして提出するため、検査に引っかかることができない事例である。入学式前の健康診断で実施しているため、先輩からの入れ知恵や友人との対策会議もないうちに行っているため、呼び出しを避けるためというよりは、自らの精神保健上の困難に気づいていないと思われる。もう1つは、呼び出しても来所しない学生が少なくない事実がある。学生課から呼び出してもらっても来ない学生について、自殺念慮等のため著しく心配な事例では専攻の教員から来所を催促してもらおうが、来所を強いることが逆効果にな

ることも想定しなければならず、全例強制執行をするわけにはいかない。こうした学生は呼び出しがあっても自分にプラスになるとは考えられないで、応じていないと考えられる。これらの必要な援助要請を求めない学生に対して、アクセスしやすいピアサポートや元気回復セミナーを提供しているが、残念ながら利用者はわずかである。

チームアプローチとして、高大連携により、出身高校を巻き込んだ、高校時代に不適應の既往がある大学新入生の支援体制ネットワークは、1例で準備したものの結局頓挫した。また学校・家庭連携で新入生の保護者向け講演会において連携を目的とした大学生のメンタルヘルス講演をしたが、保護者と連携できたのは1例だけであった。やはり新入生自身に働きかけるしかない現状がある。

新入生への介入機会として、1つに学部全回生向けに「健康科学論」と「心理生理学」の授業を展開している。その受講生は全学生の1/50程度であり、全体への影響力は持たない。もう1つに新入生オリエンテーションがある。全学生が対象ではあるが担当講義時間は25分で、情報提供が限度である。展開する保健管理センターからのアプローチには越えられない限界がある。学生からセンターへアプローチしてもらえようような働きかけを模索しなければならない。

学生からのアプローチを活発にさせる解決策のうちの1つとして、自分の気持ちを正しく読み取る機能(メンタライゼーション)を高める介入がある。新入学時、新しいキャンパスという馴れない場所で、不安や孤独、無力感、自己効力感低下の状況で、本来よりメンタライゼーションはその機能を低下させている。そこでメンタライゼーションに準拠した大学生への精神保健教育が必要ではと考えた。そこで科研費研究の支援を得て、情報収集のため平成26年11月にロンドンのアンナフロイトセンターでの、思春期青年期

のためのメンタライゼーション準拠療法の講習会に参加し、治療登録者に認定された。

メンタライゼーションの2つの定義と2つの臨床的な立場は以下の通りである。

定義 前意識の意識化機能。\*Marty1970

豊かさ、流動性、永続性(量質動)の3点で評価する。\*Marty1985

定義 他者や自分自身の行為を、それらの背景にある心的状態(感情、思考、信念、欲望など)との関連で読み取る能力のこと。\*Fonagy1991、狩野/臨床精神医学2009、精神分析研究2013 である。

2013「Psychosomatics today: a review of contemporary theory and practice.」: Psychoanalytic Review によれば、現在世界に2流派、共にメンタライゼーションに重きを置く精神療法がある

立場 パリ心身医学派(Martyらのパリ心身医学研究所): speechless mind

立場 愛着アプローチ派(Fonagyの着想から英国アンナフロイトセンター、米国メニングクリニック): speaking body

大学生に対するメンタライゼーション準拠療法(森による)への試みとして、以下を提唱する。

試み 英国におけるMBT-Aの外来プログラムとデイプログラムの中間を念頭に置く。

試み 週1または隔週の個人面接、週1の安全基地提供(ピア・サポート)、年1のオリエンテーション、年2の元気回復セミナー、4年間継続する就学支援とキャリア支援などを提供する。

試み Speechless mind と Speaking body どちらも対象とし、英仏の統合をめざす。

試み ピア・サポーター養成、臨床心理専攻院生の支援、学内資源のネットワーク化

を構造化していく。

大学におけるノンメンタライズの検討と対策を行っていく。実施に当たって留意事項としては、学生、教職員及び対策に分けて整理した。

#### (1) 学生側の問題

独立に向けてメンタライゼーション失調が起こりやすい。

親から離れることで、愛着システムが過活性化しやすい。

対人関係や資格取得、実習、就職にまつわる刺激が増加しやすい。

周囲からの支援がなく、エイリアンセルフが活性化しやすい。

心的等価、見せかけと目的論的行動化: 自傷、暴力、挑発、境界侵害

#### (2) 教職員側の問題

教職員の不安増大とメンタライズ能力低下(硬直、批判、防衛的、拒絶、処罰)

#### (3) 対策案

メンタライジング・チームの創生

日常業務におけるメンタライジング危機対応への明確な構造化

限界設定違反や行動化を扱う時のメンタライジングに準拠した対応

事例検討会議

フランスとイギリスにおけるメンタライゼーション準拠療法の現状を把握できた。その世界の現状から、教員養成課程学生に対する精神保健教育のプログラムを開発した。入学時に実施した新入学生に対し、入学時のメンタライゼーション機能評価により従来の学生支援よりも適切な学生支援や学生教育を在学期間提供することができた。

今後の発展として、2017年7月8日にパリ大学都市にて、メンタライゼーション研究の成果の一部を発表することになっている。

#### 5. 主な発表論文等 (研究代表者は下線)

〔雑誌論文〕(計 2件)

森 孝宏 メンタライゼーションに基づく心身相関理解は、新しい時代の求めに応えられるか?: 心身医学 Vol.55 No.6, 253 2015 査読無

森 孝宏 メンタライゼーションに準拠した大学生への精神保健教育の研究:全国大学メンタルヘルス研究会報告書 36 65-69 2015 査読無

研究者番号：

(4)研究協力者 なし  
( )

〔学会発表〕(計 3件)

第 56 回日本心身医学会総会ならびに学術講演会 2015年6月26-27日 森 孝宏メンタライゼーションに基づく心身相関理解は、新しい時代の求めに応えられるか？ 東京都江戸川区・タワーホール船堀

第36回全国メンタルヘルス研究会 2014年12月11-12日 森 孝宏メンタライゼーションに準拠した大学生への精神保健教育の研究 京都市・龍谷大学大宮学舎

第 56 回日本心身医学会近畿地方会 2014年7月27日 森 孝宏メンタライゼーション準拠心身(相関)医学入門 大阪府枚方市・関西医科大学枚方病院

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

森 孝宏 (MORI, Takahiro)  
京都教育大学・教育学部・教授  
研究者番号：70387538

(2)研究分担者 なし  
( )

研究者番号：

(3)連携研究者 なし  
( )